

病児保育のNPO法人フローレンスの代表理事

駒崎弘樹さんが講演

ワークライフバランス導入のメリット訴える

つくば



「子育てと仕事の両立可能な社会」にするための方策を説く駒崎弘樹さん＝つくば市研究学園のイーアスホール

つくば市主催「男・女（ひと）とセミナー特別講座」学ぶことは、変わる」とが2月27日、同市研究学園のイーアスホールで開かれた。病児保育のNPO法人フローレンスの代表理事・駒崎弘樹さん（29）が、「職場から社会を変える」中小・ベンチャー企業がワークライフバランスに取り組み「メリット」として同法人の活動を紹介し、女性が働きやすい社会にする必要性を訴えた。同市商工会共催。

駒崎さんは慶大在学中に、学生インターンチャー経営者として、さまざまな技術を事業化。成功を収めていたが、共同経営者に譲渡し2005年、「子育てと仕事の両立可能な社会」を目指してフロー

レンスを立ち上げた。

東京を中心に、日本初の共済型・非施設型病児保育事業を展開。また、中小企業に対するワークライフバランス（仕事と生活の調和）のコンサルティングにも取り組んでいる。さらに昨年からは、「ひとり親家庭」を支援する寄付会員（サポート隊員）募集の活動もスタートさせた。

講演では、「子どもが病気になると保育園で預かってもらえないため、会社を休ませるを得ず、そのせいで職を失った女性がいることを知った。病児保育は、保育領域の中で最も社会的取り組みが遅れている」と、同法人を発足させた動機を説明。病児保育が必要とされているのに、対応する保育園が増えないのは、経済的な問題があるから、と指摘。新しい仕組みをと考え、共済型・非施設型にしたという。

看護師や保育士の経験者、子育てベテランなどを募って「子どもレスキュー隊」として小児科医と連携しながら、隊員の自宅で病児保育をする方式。時間単位の料金設定では、高額にしないと成り立たないため、発病率に応じた掛け捨ての月会費を集めるようにした。

ワークライフバランスのコンサルティングは、病児保育問題の背景にある就労環境の改善のために始めた。「問題の根源は、子どもが病気の時に休めない社会」と駒崎さん。仕事、子育て、自己実現のための勉強なびを択一ではなく、自由に選択できるような

社会にシナジーは、と話した。そのうえで、「高齢者が多くなると、働ける人の数が減ってしまう。今の経済を維持するためにも、女性が仕事を続けられる社会にすることが不可欠」と結んだ。

（吉田裕美）